



りすのあしあと

寒い日が続いていますが、子どもたちの元気な声が室内を暖かくしてくれています。今年度もいよいよ残りわずかとなり、来年度へ向けてみんなで少しずつ準備をしながら、残りの日々もおもいきり楽しみたいと思います。



2月のりす組



友だちに興味が出始め名前を呼んだり、一緒に遊んだりすることが増えてきました。中でもおままごとでのごっこ遊びがブームで、机を囲みお誕生日会をしたり、「手を合わせて、いただきます」と言ったりして生活やお家で経験したことを真似して遊んでいます。遊びの中では言葉のやりとりも見られ、「どうぞ」「おいしいね」と言い合う姿があり見てとても微笑ましいです。

豆まき



節分の日にはホールで歌を歌ったり、鬼のパンツのダンスを踊ったり、鬼の的に向って新聞紙のボールを投げて豆まきをしたりしました。朝のお集まりで歌とダンスの練習をしていたので、恥ずかしそうにしながらも口ずさみ体を動かして参加してくれました。豆まきでは風船や段ボールの鬼の的があり、風船の鬼にはなかなかボールが当たらず苦戦していましたが、保育教諭に高さを低くしてもらったり、背伸びをしてねらったりして鬼に当てようとする一生懸命な姿が見られ、当てることができると満面の笑みで喜んでいました。

☆エピソード☆ (日常の一コマを紹介します)

朝ホールで遊んでいた時のことです。ひよこ組の男の子が泣いているとAちゃんが駆け寄ってきました。

Aちゃん 「どうしたのかな、悲しいのかな、どっか痛いのかな」

保育教諭 「本当だね、どうしたのかな」

Aちゃん 「よしよし、あっ！笑ったよ！よかったね」



※日中ひよこ組と一緒に過ごすことが多いので、ひよこ組の子が泣いていると顔をのぞきこんだり、頭を撫でてあげたりと気にかけてくれる姿が見られるようになりました。年下の子への関心があり、自分たちから関わってくれることが増えお兄さん、お姉さんに近づいてきているなと感じています。